

招待講演

日本社会にとって米とは何であったか

佐藤 洋一郎

(京都府立大学 和食文化研究センター 特任教授、総合地球環境学研究所名誉教授)

和食文化がもてはやされる一方で、和食の根幹をなす米、大豆、魚の消費減退が止まらない。米についても一人年間消費量は1960年代の120 kg弱から、2017年には50 kg台前半にまで落ち込んだ。京都市などパンの消費量の多い都市では、すでにパン食>米食という状況が生まれている。また米消費をみても、外食>家庭食の状況が生まれている。かつての、日本社会は水田稲作社会、日本の食文化は米食文化という枠組みが壊れたのは、米に託された役割が消滅したからである。2000年間の日本社会における米の役割を考えてみたい。

